

H3 ロケット 8 号機の打上げ失敗の原因究明及び今後の対策について

令和 8 年 7 月 30 日

文部科学省

H3 ロケット 8 号機対策本部

昨年 12 月 22 日の H3 ロケット 8 号機の打上げ結果を受け、文部科学大臣の指示に基づき、同日、対策本部が設置され、以降、原因究明及び必要な対策検討を進めてきました。

JAXA の行う原因調査等を専門的見地から独立した視点で調査検討してきた文部科学省の宇宙開発利用部会 調査・安全小委員会において、原因究明に係る報告書がとりまとめられ、7 月 23 日の宇宙開発利用部会（第 107 回）において了承されました。

報告書においては、

- ・ 打上げ失敗の発生事象としては、衛星フェアリング分離開始直後に、衛星搭載構造の一部が損傷・破壊したことが起点となり、ロケットの第 1 段・第 2 段機体が分離した時点で衛星が離脱したと推定されること
- ・ 直接要因としては、衛星搭載アダプタ（PSS）に生じた剥離が衛星フェアリング分離時の衝撃で進展し、最終的に不安定破壊に至ったことが主要因であった可能性が極めて高いこと
- ・ 当面の実用衛星等の打上げに向けてはファスナ結合方式 PSS を適用すること。また、補修方式 PSS を適用して打ち上げた 30 形態試験機にて取得したデータからは、原因究明の分析結果を科学的・技術的に裏付けており、PSS の補修方法や強度設計手法が妥当であると評価したこと
- ・ 再発防止に向けた背後要因分析及び是正対策案については、JAXA においてロケット開発、組織全体の双方の観点から分析・評価が実施され、合理的かつ妥当なものと評価したこと

等が示されました。

文部科学省としては、本報告書を真摯に受け止めるとともに、JAXA において実効性ある是正対策や再発防止策がしっかり実施されるよう、引き続き必要な支援やフォローアップを実施してまいります。

報告書のとりまとめに当たり、部会及び小委員会の委員の皆様と、数多くの H3 ロケット関係者の御協力、御尽力に対し、感謝の意を表しますとともに、H3 ロケットの信頼回復に向けて、更に取組を進めていただきますよう、お願い申し上げます。